

北の住まいるタウン 恵庭市事例見学ツアーの記録

1 概要

開催日時：令和2年10月29日（木）10:00～16:00

集合場所：緑と語らいのひろば えにあす（JR 恵庭より徒歩8分）

参加者数：合計 29 名（参加者 21 名、道庁 4 名、コンサル4名）

2 事例見学ツアーの記録

（1）ガイダンス



○開会挨拶

- ・北海道建設部まちづくり局都市計画課 渡辺課長
- ・恵庭市企画振興部 大槻部長

○「恵庭市ガーデンデザインプロジェクトの概要」

- ・説明者：恵庭市企画振興部まちづくり拠点整備室 岡田室長

2グループに分かれて見学

以下の施設見学（2）～（9）までのご説明

恵庭市企画振興部まちづくり拠点整備室 岡田室長、後藤振興監、今野課長、小川主査、茂古沼主任主事

（2）緑と語らいの広場 えにあす



○駅周辺における公共施設の集約と、民間事業社誘致による賑わいの創出。

公共施設として市民活動センターや保健センター、夜間診療所、図書館分館、子育て支援センターなど、民間機能としてスポーツクラブやイトイン型コンビニ、地域FM放送がある。市民のサードプレイスが形成され、利用者数は目標値を上回り、自習コーナーなど、学生・子供達の新たな居場所・たまり場となっている。

（3）恵み野商店街（車中より見学）



○広い歩道には植樹柵が設置され、樹木や花が植えられている。駐車場は店舗の裏にあるが、来店者の利便性を考え、都市計画道路の一部を駐車帯に改修した。植樹帯は恵庭市と商店街の協力で改修した。維持管理は商店街と恵庭市で管理協定を結んでいる。

(4) 研究村通り（車中より見学）



○電線の地中化や、ガレージのビルトイン、塀が無いなど、景観に配慮した街並み。1戸あたりの敷地面積は100坪中心で、通りに面して丹精込めた庭が広がっていた。

(5) 優良田園住宅（ブレスドガーデン恵庭）（車中より見学）



○恵庭の田園風景と調和の取れた、ゆとりある住宅地を30区画販売し、転入人口の増加、景観づくり、地域経済の活性化を目指した。高さや色彩、道路に面する2m幅は草花に彩られた空間とするなどのルールがあり、花や野菜を育てながら暮らすライフスタイルが景観に直結した街並みである。開発主体は地元の建設事業者等で構成される協同組合。敷地規模は約160～270坪。

(6) 道と川の駅 花ロードえにわ（昼食）



○年間100万人を超える集客力のある道の駅。農産物直売所「かのな」も併設され、買い物客で賑わっていた。多目的広場やウォーターガーデンも整備されている。2020年3月リニューアルオープンした。

(7) 花の拠点センターハウス



○旧保健センターの建物を大規模改修した。観光案内、花を中心とした展示・研修、子どもの遊び場、RVパーク利用者向けサービス機能（休憩室・洗濯室など）を導入し、2020年11月オープン予定である。



(8) 漁川親水空間



○恵庭かわまち作り事業（国土交通省と恵庭市の連携事業）で、漁川沿いの河川空間を、親水性や利便性を高める新たな河川環境となるよう整備している。親水護岸や観察デッキ・散策路を設け、気軽に豊かな自然と触れ合える施設整備を目指している。

(9) ふれる恵み野



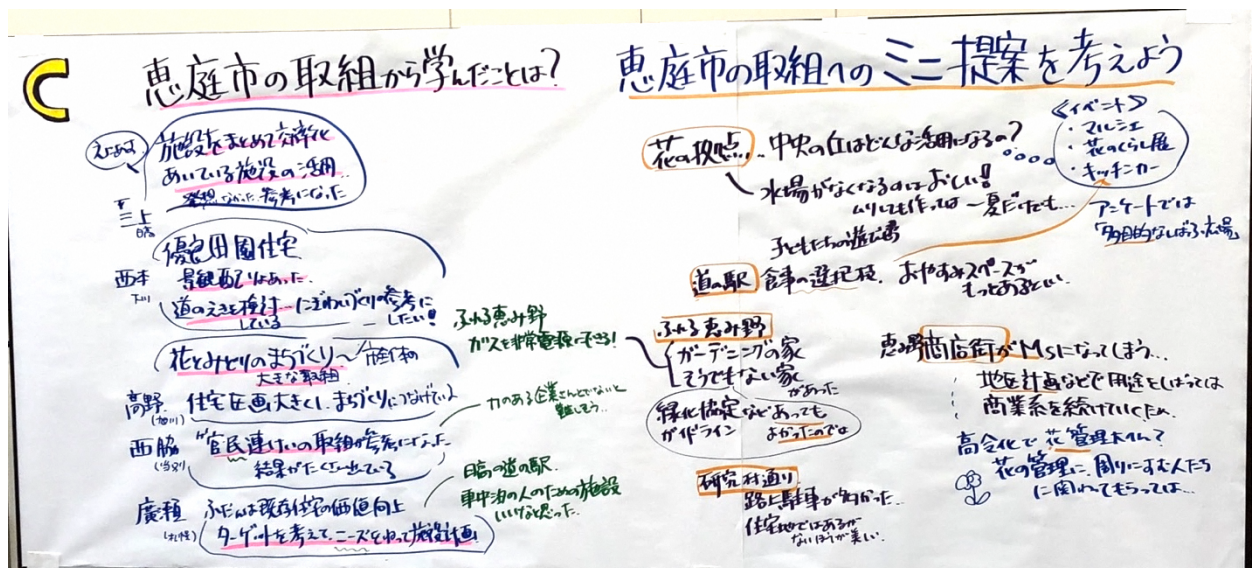
○ガーデニングが楽しめるゆとりある住宅地とするため、全ての宅地は一区画 300 m²以上となっている。景観配慮事項やガスマイホーム発電システム導入の推奨などが、住宅地販売条件になっている。開発主体は地元の建設事業者等で構成される協同組合。

(10) 意見交換



○4グループに分かれ、「恵庭市の取組から学んだことは?」「恵庭市の取組へのミニ提案を考えよう」というテーマでワークショップを行い、各グループから出された意見を発表して共有した。

・ファシリテーション：石塚計画デザイン事務所



＜グループ意見交換模造紙の例＞